



—黒澤貞夫氏にきく—

介護福祉と介護福祉士の専門性について



介護保険制度発足当時から、問われ続けてきた介護福祉と介護福祉士の専門性。介護の質の基軸とも言える重要なこのテーマを、介護現場での実践と数々の著書を通じて解き明かしてきた黒澤貞夫氏。氏はこの度、専門誌『介護福祉士 vol.25』最新号にて、自身のライフワークとも言えるこのテーマに新たに挑み、ロングインタビューに答えた。介護の哲学に裏打ちされた黒澤氏のインタビューの奥深い内容の一部を抜粋・編集したものをここに紹介したい。



黒澤貞夫氏

群馬医療福祉大学大学院特任教授・日本生活支援学会会長

テーマ1

介護は人間科学である

黒澤氏はインタビュー冒頭、介護福祉は人間科学であり、生活経験を根拠とするものでサイエンスを人間的に見ることであると語った。

—介護福祉が人間科学であるとはどういうことですか？

「一生をかける価値ある仕事とは何か、簡潔に言えば専門性です。専門性とは、科学的思考と科学的方法を持っているということです。ところが、この科学的思考、方法を考えると、医学、物理学といった分野が科学的と言われているのです。つまり、高い観察や技術、あるいは数学的実証性、そういった

ものが科学的であるということです。しかしそれは、どちらかというに限られた専門職の世界です。(中略) それに対して介護は、生活のことですから、身近な仕事です。(中略) ここで介護を人間科学とすることは、サイエンスを人間的に見るという考え方になります。生活の中で関わり合う分野が人間科学なのです。」

テーマ2

人間科学は哲学的な思想を基盤としている

続いて、個人に対する日常的な生活の支援を人間科学という普遍的な学問に結実させたものとし、ヒューマニズムと経験主義という2つの視点をあげた。

—介護福祉は生活の支援で、経験を基盤とする科学ともいえます。それがどのようにして人間科学という普遍的な学問に結びついたのでしょうか。

「人間の科学とは、人間性に目覚めることからです。一人ひとりの人間の生き方に関心を持って、気遣って、そして支援することが基本なのです。(中略) これは歴史上、ヒューマニズムという思想で説かれています。(中略) このルネサンス運動の人間尊重を、今日の人間科学の思想、介護の世界では、「人間の尊厳」